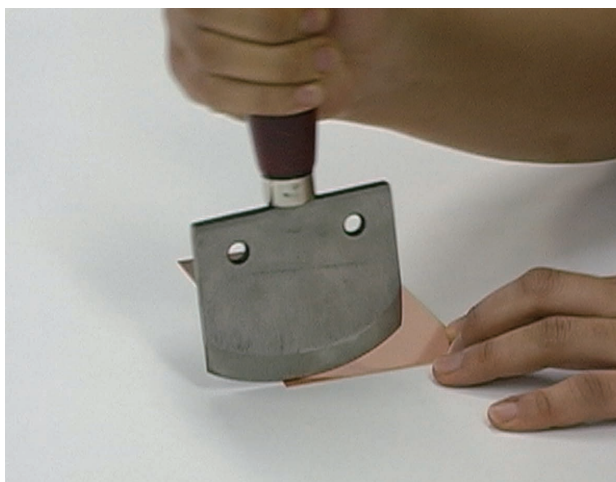




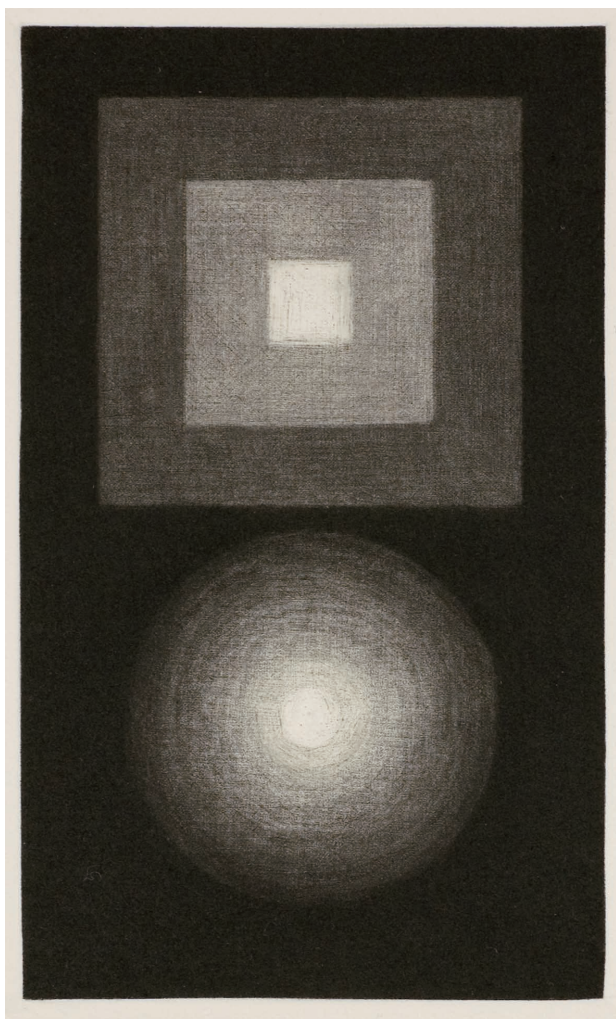
メゾチント

めぞちんと

造形ファイル <http://zokeifile.musabi.ac.jp/>



メゾチントによる制作例



概要

メゾチント (mezzotint: 英) は、あらかじめ版面にロッカーなどの道具を用いて、無数のまくれ（穴）を作り、それを削ることで描画する直接技法のひとつで、豊かな明暗濃淡に富み柔らかい階調の表現を得られるのが特徴です。フランス語でマニエール・ノワール（黒の技法）と呼ばれることもあります。

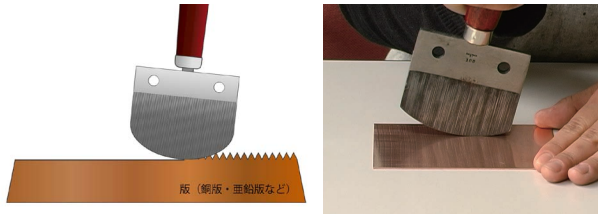
メゾチントは1642年にオランダのルートヴィッヒ・フォン・ジーゲンが発明して以来、油彩画の複製や書物の挿絵などに使用されてきました。近代に至るまで、美術作品を作る技法としてはあまり活用されていませんでしたが、長谷川潔や浜口陽三などの功績もあり、今では数多くの美術作品が作られています。

メゾチントは描画の前に、ロッカー（ベルソー）と呼ばれる道具を使い製版します。ロッカーは、版面に当て左右に揺らして使用します。この作業を縦、横、斜め（対角線2方向）の4方向から、均一な無数のまくれができるまで繰り返します。これを「目立て」といいます。こうして版面は、サンドペーパーのような状態になります。ロッカーで作り出したまくれにインクが絡まることで黒く印刷することができ、スクレーパーやバニッシャーを使用して、まくれを削り取り深さを加減することで、灰色や白色などの階調を作り出します。また、ロッカーの代用として、カッターやルーレット、ハーフトーンコームなどの道具を使って目立てを行うこともできます。

メゾチントは、プレス機の圧により版面のまくれがつぶれてしまうために耐刷性に乏しく、印刷できる枚数が限られています。しかし、版にクロームメッキ処理を施すことで、刷れる枚数を増やすことが可能です。

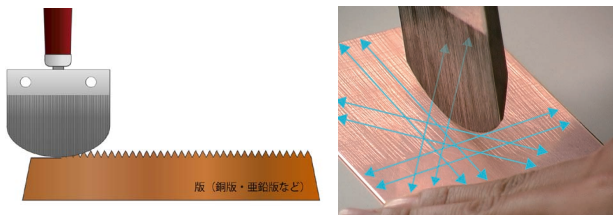
メゾチント制作工程

工程 1. ロッカーを使い版にまくれを作る（目立て）



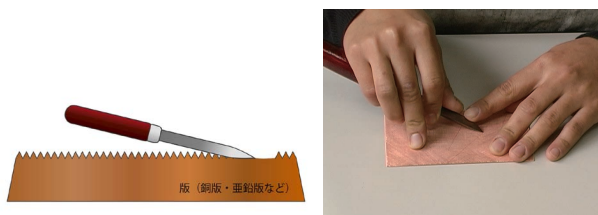
まず、版の全面にまくれを作るためにロッカーを揺らしながら動かします（目立て）。

工程 2. 目立てを行う



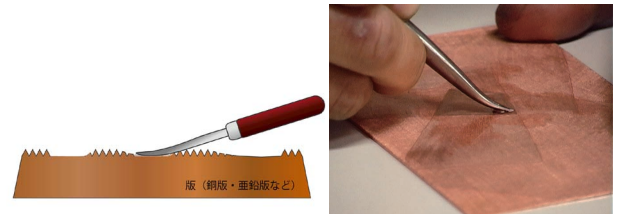
ロッカーは、縦、横、対角線の2方向の計4方向に動かし版全面にもれなくまくれを作ります。光の反射がずいぶん鈍くなる程度まで作業するのが目安です。

工程 3. スクレーパーで削る



版全面にまくれが作れたら、カーボン紙を使い下絵を版に転写します。転写を終えたら描画を行います。この作業では、スクレーパーを使いまくれを削っていきます。まくれの高さを变えることで、黒や灰色、白の階調を作り出します。

工程 4. バニッシャーで磨く



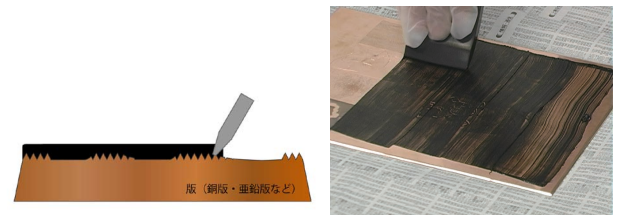
まくれを削ったら、白くしたい場所をバニッシャーで磨きます。機械油を数滴たらしてから磨くと綺麗に仕上がります。

工程 5. 版の状態を確かめる



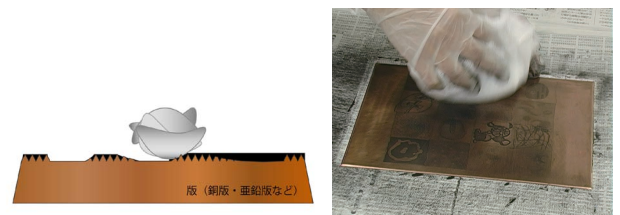
版の印刷した状態を確認したい場合には、トレーシングペーパーなどで光を分散させることで、版の状態を大まかに確認することができます。

工程 6. 刷り・インクを詰める



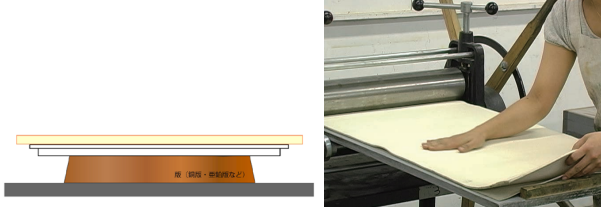
インクベラで艶が出るまでインクを練り、ゴムベラなどを使い版にインクを詰めていきます。

工程 7. 刷り・余分なインクを拭き取る



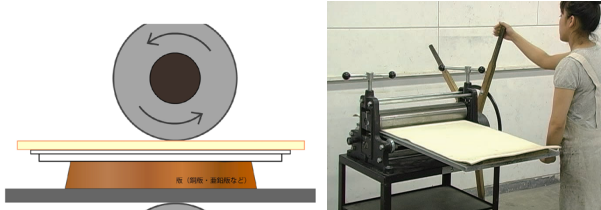
余分なインクは寒冷紗などを用いて拭き取ります。荒拭き、中拭き、仕上げ拭きと段階ごとに拭き取ります。

工程 8. 刷り・紙、あい紙、フェルトをのせる



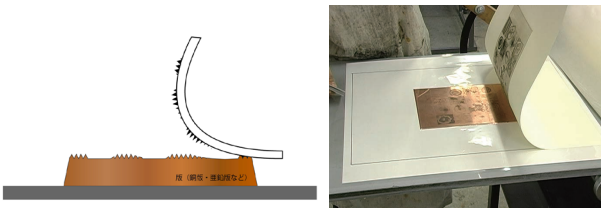
版にインクを詰め、余分なインクを拭き取ったら、版をプレス機のベッドプレートにのせ、その上に紙、あい紙、フェルトを順にのせていきます。

工程 9. 刷り・プレス機を通す



プレス機を通して圧をかけことで、版から紙にインクを転写します。最後まで一定のスピードを保つようにしてプレス機のハンドルを回します。

工程 10. 刷り・プリント完了



フェルトとあい紙をあげて、刷り具合を確認しながら、紙ばさみを使いゆっくりと紙をめくります。